EICA Journal of EICA Essay エッセイ

環境・芸術・文化

Environment, Art and Culture

武　田　信　生
Nobuo Takeda

EICA 名誉会員・京都大学名誉教授

見るみるうちに危ないあぶない世の中になってきたように思う。ウクライナとロシアとか，イスラエルとハマスとか，シリア・イラク・イランとか，近くでは中とか韓とか，北朝鮮とか。何が何なのか分からないような混乱の中で，確実に多くのいのちが失われていく。三百人近くを乗せたマレーシアの民間旅客機がどうやらミサイルで撃墜されてしまったらしい。ウクライナ・ロシア（現時点では親ロシア派）の紛争地域なので国際的な調査団も事故現場に近づけない状況とか。万一，“一触即発”の尖閣諸島で日中が“触発”したらどうなるのか。戦火は朝鮮半島にまで及ぶのか，沖縄・九州は？ 原発銀座の若狭湾にミサイルが飛んでくるようなことは起こらないのか，“米”はどうするのか。まさかそんなことは……という身勝手な希望的観測が第二次世界大戦での大失敗に繋がったのではなかったのか。

中東など，長年にわたる紛争地域では，子どもたちは戦争の中で生まれ，戦争の中で育ち，戦争の中で死んで行く。この人たちにとって戦争は人生そのものであり，戦争は最大でかつ唯一の産業ですらある。今のように紛争地域がどんどん広がっていけば，このような戦争人（？）がどんどん増えていくことが危惧される。

はなし変わって，最近食品工場などの仕組みを見せてくれるテレビ番組は意外に面白く人気がある。食品の加工・製造工場の活躍をみていると，つくづく感心する。柔らかいものは「そっ」と，「カリカリ」するものはそのように，……，微に入り細に亘り研究し尽くされ，蓄えられた経験・ノウハウをつぎ込まれた機械が設計され，IT 技術を駆使した制御システムによって運転されている。工場内に人影は少なく最小限の人数で工程を監視している様子である。人手が入らないことは食品衛生の面からも好ましいことなのであろう。1分間に何個，何食などという生産速度の話を聞くと，とんでもない数量の物が次々と世に送り出されていくことが分かる。素材（小麦粉，カカオ，砂糖，塩，油などなど）を工場に入れると工場の出口ではチョコレートやクッキーがざくざく出てくる，そのような，幼い子どもの頃の夢が現実になってきたように思える。ことほど左様に IT 技術の発達が決定的に社会のあり方を変貌させ，さらに変えつつある。商品はほとんど放っておいても生産されてくるような状況である。今や，「物」は作ることよりも売ることの方が難しくなっている。いいかえれば，いかにうまく，速く消費させてしまうか，である。自然災害は，残念なことではあるが，巨大な消費を生み出した。

金融は自由（資本主義）社会の発展に大きく貢献してきた。金融は常に新しい投資先を必要とする。金融にとっては，いつも何が大きな消費を生み出すのかが最大の関心事になっているのではないか。一方，不謹慎ながら戦争は魅力的な市場である。次から次へと高価な物が消耗され，破壊され，しかも次々と補充されていく。多くの場合，支払いは国家がしてくれるので堅い商売である。こんな結構な市場を相手にした商売は一度経験すれば決してやめる気は起こらないだろう。“危険ドラッグ（脱法ドラッグ）”みたいなもの？

社会が危険ドラッグへの道を歩まないようにすることはできないものだろうか。あるいは，脱法ドラッグから脱する方策はないのだろうか。ここへきて，環境や芸術・文化をリスペクトする風潮を社会に醸成し，お金が環境や芸術・文化につぎ込まれるようにすることが人類にとって最大級に重要なことなのではないだろうか。遠回りのようであるが健全，安全かつ確実なお金の使い方である。しかも終わるところはない。投資は回収され金融は潤い，環境・芸術・文化を享受する人類も一層豊かになるのである。さもなくば，最大の消費として「戦争」が選択される危険性が高いといわざるを得ない。戦争は確かに魅力の大きい消費である。人びとが必要としているかどうかとは関係なく，憎しみや怨みの再生産さえ怠らなければ，無限に消費を拡大していけるのであるから。

しかし，賢明な現代人は次のことを想起すべきである。洋の東西を問わず，かつての王たちは芸術・文化を重視し，貴重な遺産をわれわれに遺してくれているのである。また，良好な環境を生み出していくことは貧困を克服し安定した平和な世界を生み出していく基礎要件なのである。